

令和8年度 第1回 高尾山学園学校運営協議会 会議報告

- 1 開催日時 令和8年4月10日（金） 午後3時から午後5時まで
- 2 開催場所 八王子市立高尾山学園 ランチルーム
- 3 出席者 工藤会長・野村委員・大槻委員・石渡委員・入江委員・黒沢委員
鈴木校長
(事務局) 山田副校長・佐野副校長・和田副校長・久保・長田課長補佐
上野統括指導主事、小又指導主事
(傍聴者) なし
- 4 欠席者 墓田委員

5 進行内容

- 会長挨拶
- 学校長挨拶
- 報告事項

【学校長より報告】

(以下抜粋)

※学校の様子について、スライドで説明。

(1) 年度当初の様子と重点目標

- ・ 始業式と新入生歓迎の会（4月6日）：中学1年生を迎え、子供たちは高い出席率で静かに話を聞いていた。代表の生徒が今年度の抱負を発表し、全員で校歌を歌ってスタートを切った。
- ・ 今年度の重点目標：校長より、「自信を持てる人になろう（自信をつけよう）」という目標が示された。「たとえチャレンジして失敗しても後悔せず、次につなげていく」という姿勢を年間通じて、子供たちに伝えていく方針である。
- ・ 教室の風景：各担任がホワイトボードや掲示板に、桜の絵や英語での熱いメッセージ（安藤先生など）を書いて子供たちを迎え入れた。

(2) 職員研修と教職員の状況

- ・ 服務事故防止研修：山田副校長により、特に自転車の交通安全（110項目以上のチェックポイントがある）に関する研修が行われた。
- ・ 人材育成と研修の強化：管理職の育成に加え、若手教員の育成が急務。数年以内に学園のシステムを築いてきたベテラン勢が退職・異動を迎えるため、現在の若手（新規採用3名、2～3年目数名）を育てることに重点を置く。
- ・ 不登校担当やチャレンジ教室などの専門的な研修を積極的に受け、学園全体、ひいては東京都全体の不登校対策のレベルアップに貢献したい。
- ・ 新任紹介：鈴木先生（理科、バスケットボール経験者）、本山先生（家庭科）、梶山先生（福岡県での経験あり）など、10数名の職員が入れ替わった。

(3) 本校の状況報告（登校率・進路・児童生徒数）

- 登校率：昨年度の年間平均登校率は 74.6%。
- 進路：卒業生 53 名全員（100%）の進学先が決定した。
- 児童生徒数：今年度は計 92 名（小学部 17 名、中学部 75 名）でスタート。昨年（84 名）より増加傾向にある。

小学部 4・5 年生は、人数が基準に満たないため複式学級となった。

【市教委からの報告】

分校（下柚木小学校内）の設置計画について

- 現状：令和 9 年 4 月の開校を目指して準備を進めている。
- 地域説明会：3 月下旬に実施。地域住民や保護者から、計画の進め方や具体的な校舎の活用、安全面などについて不安の声が上がり、より丁寧な説明と合意形成が必要とされている。

（質疑応答）

→下柚木小と決めた理由は？

回答：交通の便の良さと施設の広さ 教室数の観点からも決めた。

6 協議事項

(1) 令和 8 年度教育課程届&学校経営計画について

今年度、高尾山学園として重点的に進めていきたい柱は、「人材育成」と「研修の充実」の 2 点である。

● 人材育成について

今年度、新たに校長・副校長が複数名着任したことを踏まえ、まずは管理職層から人材育成を図っていく方針である。また、教員構成についても若返りが進んでおり、今後 2～3 年の間に、これまで高尾山学園の教育体制を支えてきたベテラン教員が異動や退職を迎える見込みである。これまで築き上げてきた高尾山学園の教育システムを継続・発展させていくためには、若手教員の計画的育成が不可欠である。今年度新規採用教員 3 名に加え、2 年目教員 2 名、3 年目教員 1 名がおり、こうした若手教員を丁寧に育成していく。

● 研修の充実について

昨年度は東京都主催の研修に延べ 120 名以上の教員が参加した。今年度も引き続き各種研修への参加を継続する。特に、チャレンジ教室、不登校対応の巡回指導教員等については、積極的に実践・検証を重ねることが本学園の重要な役割であると認識している。昨年度まで在籍していた副校長が現在統括指導主事となっており、教育委員会との連携も一層深まることが期待される。こうした取組を通じて、高尾山学園で育つ意義を明確にし、ここで育った教員が異動

先でもその経験を生かし、教育の質向上につなげていきたい。以上の2点を今年度の重点事項とする。

(2) 学校運営協議会 活動目標について

今年度の活動目標については、大きな変更はない。昨年度から継続している地域との連携について、以下の取組が報告された。

- ・ 舘ヶ丘団地の地域カフェへ畑講座で育てた大根の提供
- ・ 手芸部による作品（キーホルダー等）の制作・販売

特にキーホルダーは地域住民からも好評であり、今年度も継続して実施する予定である。材料費のみで運営しており、営利目的ではなく、双方が納得した形で進めている。また、売上や収支計算を生徒自身で行うことで、キャリア教育の一環としての意義も見出せるのではないかと意見があり、地域連携と学習活動の両立を図っていく。

(質疑応答)

→金銭のやり取りで利益はどうしているのか。

回答：利益はとっておらず、材料費で行っているため、問題ない範囲で実施している。

(3) いじめ対策の対応状況について

現在、いじめの「認知」として扱う案件はないが、いじめ対策会議において経過観察中の事案が2件ある。

事案①：現小学校第5学年児童

前年度より、暴言・乱暴な言動が見られる児童について、本人への指導と経過観察を継続中。

事案②：現中学校第3年生生徒

アンケートをきっかけに、同級生の暴言により精神的な負担を感じている生徒がいることが判明。対象生徒に指導を行いつつ、引き続き見守っている。

年度当初にいじめ認知件数が0件であることについて、珍しいが望ましい状況であるとの共有がなされた。

(4) 学級編成

(小学校) 4・5年 複式学級 1学級

6年 1学級

(中学校) 1年 1学級

2年 2学級

3年 3学級

(5) 学運協主催行事について

放課後カフェの運営について

第1回放課後カフェを5月22日（木）15時20分～実施予定。費用についてはTSネットからの支援を活用することについて了承を得た。

しかし物価高騰や輸送費増加の影響により、企業からの食品提供が近年減少している現状が報告された。今後は、フードドライブや防災備蓄品の活用、地域団体との連携等、柔軟な方法を検討していく。

今後のアプローチ:

→ 「バラエティクラブ」や南大沢方面の活動団体、フードドライブ（家庭での余剰食品の持ち寄り）などを活用し、放課後カフェの運営に必要な食材や物品を確保するための連携を模索する。

（6）各委員より

- 高尾山学園の取組が東京学芸大学書籍『学びが生まれる学校（仮）』に事例として掲載予定であり、ネット販売も開始される見込み。
- 人材育成の仕組みや教員配置のあり方について、全国的にも注目されており、今後の情報発信の重要性が指摘された。

次回開催予定	令和8年5月11（月）	午後3時から
--------	-------------	--------

※令和8年度の年間計画は配布した予定表の通り